

1. 実践内容

- 学年 第1学年
- 単元名 Talking Time ⑥ お昼ごはんを食べよう (2/4)
“Which ~?”の疑問文を用いたオリジナルスキット作り
- 4技能 「聞く」「話す」

この実践は、NEW CROWNにあるLet's Talkの授業で、新出表現や既習表現を用いながら、日常生活でありそうな場面を考えて生徒が自由にスキットを作り発表するものである。毎回スキット作りをして発表するわけではないが、以前は値段をたずねる表現を使って買い物の場面のオリジナルスキットを作り発表している。今回はその経験を生かして、「相手(聞く人や見る人)に伝える工夫」を考えながら、より良いスキット発表につなげていくことが目標である。

○ 学習活動 ・ 生徒の問い続け	○ 支援 □ 評価
<p>話 “Which~?”の疑問文に対する答え方を復習する。 Q: Which do you like, fish or meat? A: I like meat.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Which の疑問文にスムーズに答えることができる。 ・ meat などの単語でしか答えることができない。 <p>話 前時に作った疑問文と絵を使って友達に質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつを交えて積極的に質問する。 ・ 自分が作った質問を忘れてしまう。 ・ 自分から会話しようとしなない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">聞き手に伝える工夫をしてスキットを作ろう。</div> <p>聞 前回の、買い物の場面のスキットで良い発表をしたペアの映像を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 良いスキットにはどのような要素があるのかを考える。 ・ ジェスチャーが分かりやすい。 ・ 大きな声で発表している。 ・ イラストを使っている。 ○ 評価項目を確認する。 ・ 前回の評価項目と違うことに気づく。 <p>話 聞 ペア・グループでスキット作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような場面での会話にするか考える。 ・ 教科書や辞書を使いながら、英語表現を考える。 ・ 使いたい表現があるが、単語が分からない。 ・ 1人の意見だけでスキット作りが進んでしまう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どのような場面での会話にするかを考え、スキットのおおまかな流れや内容を作った。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の場面/買い物の場面/カラオケの場面 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ピクチャーカードを提示し、比べる物を分かりやすくする。 ○ 自分が作った質問を見直して練習する時間をとる。 ○ 質問や答え方を忘れてしまった際の手がかり黑板になるように、Which といくつかの一般動詞を貼っておく。 ○ いくつかのペアのスキット映像を見せて、それぞれに共通している良い点と、違う点について注目するよう伝える。 ○ スキット作りの進捗状況に応じて、使うと良い物や表現のヒントを伝える。 ○ 流れができたなら、一度チェックを受ける機会を設け表現や内容を確認し、より適切な表現を考えるよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">“Which ~?”の疑問文と その答えを交えたスキットを作ることができた。(観察)</div>

2. 成果・課題

英語を「聞く」ことや「話す」ことについては、抵抗なく取り組むことができる生徒が多く、小学校で英語に慣れ親しんできたことが良い影響を与えているように感じる。また、最低限のルールを示し、あとは自由に場面設定を考える機会を与えることで、生徒は自分たちが表現したいことを考え、辞書などを使って意欲的にスキット作りに取り組んだ。

今回の授業では、前回取り組んだ買い物のスキット発表で良かったものを紹介することで、どのようなスキットを目標にするかが明確になり、自分たちのペアのスキットに取り入れる工夫を真剣に考えていた。継続的にスキット作りや発表を実践していくことで、「聞いている人や見ている人に分かりやすく伝えること」の大切さに気付かせたい。

課題としては、スキットで使用される表現の正確性をどこまで求めるかということが挙げられる。当然、ある程度の文型が守られていなければ、伝えたいことも正しく伝わらない。しかし、多少の間違いがあっても伝わる場面もある。その点をどこまでチェックし修正するかは、教師側がきちんと一定の基準を持っている必要があると感じた。今回、発表するスキットの原稿を細かく点検することはしていないが、スキットを作っている過程で、使うとより自然な会話になるリアクションや表現を教えていきたい。そうすることで、回数を重ねることにより豊かなスキットが完成していくと考える。

授業の様子

〈 前時に作った質問 〉



〈 スキットを考える様子 〉



〈 作ったスキットの一例 〉

